

## グンゼ記念館

正月明けに、京都府綾部市にあるグンゼ記念館を見学しました。

郡是製絲(株)の設立は明治29年。波多野鶴吉が地域産業振興を目的に設立しました。社名が「郡是」ですから、設立時に意識されていたのは京都府何鹿郡(現在の綾部市)振興であることが明確です。設立時には多数の養蚕家から株式を募り、さながら地域工業振興協同組合のようにも思える企業です(官営払い下げの富岡製糸所とは雰囲気異なります)。

波多野鶴吉の前職は小学校教員。クリスチャンです。このためか、グンゼでは社員教育に極めて熱心に取り組みます。また、社員教育だけではなく、地域の技術者育成にも熱心です。現在の綾部高校や市民病院の前身はグンゼの取組みからです。そんな会社なので、グンゼ記念館には「教育室」という展示があり、主として文書類が展示されています。

明治42年の教育部規程には、「本部の目的は、人々向上、修養、勤労、忍耐、同情、相助、以て自ら進み、他を進め、全体を融和し、小天国を形成せんとするに在り」とされています。「信用される人が信用される製品を作る」という思想に基づき、職員、工員、社外の人を問わず、平等な教育を行ったようです。



▶誠修学院に使われた建物

昭和13年の教育体系をみると、グンゼの教育は大きく誠修学院と、産婆・看護婦学校に分けられています。誠修学院は、養成教育(指導者の育成)と一般教育に分けられ、一般教育は社内(本社と工場)と社外に分けられています。その内容は、精神教育から体育まで幅広いものがあります。真向法や玄米食に取り組んだりもしています。玄米食普及のために、独自に開発した圧力釜まで販売しました。

グンゼ記念館で、二つのことを感じました。一つは、「人を育てる人」を育てることが意識されていること。そのために、レベルの高い教育者が社外から招かれていました。もう一つは、智徳一体の全人教育が良い品質を作る、と考えていること。こんな会社だからこそ、会社のピンチに従業員が「給与を下げて経営をがんばる」という上申書を提出したのでしょうか。

(拙著「正しい目標管理の進め方」(東洋経済新報社)が発売されました。お読みいただければ幸いです。MBO実践支援センター代表)

